【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成22年8月5日(2010.8.5)

【公開番号】特開2007-225921(P2007-225921A)
【公開日】平成19年9月6日(2007.9.6)
【年通号数】公開・登録公報2007-034
【出願番号】特願2006-47235(P2006-47235)
【国際特許分類】
Ｇ０３Ｇ　15/08　(2006.01)
Ｇ０３Ｇ　15/06　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０３Ｇ　15/08　５０１Ａ
Ｇ０３Ｇ　15/08　５０１Ｚ
Ｇ０３Ｇ　15/06　１０１
Ｇ０３Ｇ　15/08　５０６Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成22年6月22日(2010.6.22)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
表面周方向に凸凹が繰り返して設けられた弾性ローラと、
前記弾性ローラに接触するように設けられ、前記弾性ローラにより現像剤が供給される現像剤担持体と、
を備え、
電圧波形において振動電界を形成する振動電界形成部と振動電界を形成しない振動電界非形成部とが交互に生じる形態の振動電界を、像担持体と前記現像剤担持体との間に形成して、像担持体上に形成された静電潜像を可視像とする画像形成装置であって、
前記弾性ローラ上に設けられた凸凹の繰り返し周期が前記像担持体上に形成された画像に形成する第１空間周波数と、前記振動電界における振動電界形成部と振動電界非形成部の繰り返し周期が前記像担持体上に形成された画像に形成する第２空間周波数と、の差の絶対値が、０．０５ｃｙｃｌｅ／ｍｍよりも大きくなるように設けられていることを特徴とする画像形成装置。
【請求項２】
前記弾性ローラ上に設けられる凸凹の繰り返し周期によって前記現像剤担持体上に形成される現像剤のコートムラの周期が、１．２４ｍｍ以下であることを特徴とする請求項１に記載の画像形成装置。
【請求項３】
前記像担持体は、回動速度を変動可能に設けられており、
前記振動電界における振動電界形成部と振動電界非形成部の繰り返し周期を、前記像担持体の回動速度の変動に応じて変更する変更手段を備えることを特徴とする請求項１又は２に記載の画像形成装置。
【請求項４】
前記現像剤担持体は、前記像担持体と一定間隔を介して対向するように設けられていることを特徴とする請求項１乃至３のいずれかに記載の画像形成装置。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３３】
上記目的を達成するために本発明にあっては
表面周方向に凸凹が繰り返して設けられた弾性ローラと、
前記弾性ローラに接触するように設けられ、前記弾性ローラにより現像剤が供給される現像剤担持体と、
を備え、
電圧波形において振動電界を形成する振動電界形成部と振動電界を形成しない振動電界非形成部とが交互に生じる形態の振動電界を、像担持体と前記現像剤担持体との間に形成して、像担持体上に形成された静電潜像を可視像とする画像形成装置であって、
前記弾性ローラ上に設けられた凸凹の繰り返し周期が前記像担持体上に形成された画像に形成する第１空間周波数と、前記振動電界における振動電界形成部と振動電界非形成部の繰り返し周期が前記像担持体上に形成された画像に形成する第２空間周波数と、の差の絶対値が、０．０５ｃｙｃｌｅ／ｍｍよりも大きくなるように設けられていることを特徴とする。